2022年度公立入試とチャレンジテスト

大阪教育文化センター

中3は大忙し。テストは年間20日以上!

月	テストなど（例）	行事（例）	月	テストなど（例）	行事（例）
4月	全国学力状況調査	始業式	10月	中間テスト（2日） 実力テスト	文化祭 オープンスクール
5月	中間テスト（2日） 実力テスト	進路説明会 修学旅行	11月	実力テスト 期末テスト（3日）	進路説明会 進路懇談
6月	期末テスト（3日）		12月		進路懇談 受験校決定
7月		1学期懇談 部活動大会予選	1月	実力テスト 学年末テスト（3日）	始業式 入試出願準備
8月	実力テスト または課題テスト	部活動府大会など オープンスクール	2月	私立入試 公立入試（特別選抜）	出願
9月	チャレンジテスト	体育祭	3月	公立入試（一般選抜）	公立出願 卒業式

2021年度中学3年生の大阪府・評定平均

5科（国社数理英）＝3.53

4科（音美体技家）＝3.58　　※評定平均は第2学年末のもの

各学校　5科の評定平均算出は

$$\text{各学校の評定平均} = \text{府平均}3.53 \times \frac{\text{学校平均}}{\text{チャレンジ府平均}}$$

各学校の評定平均の幅

各学校の4科の評定平均の幅は

4科の府評定平均の幅と合わせ

(5科平均or4科府平均)±0.3内に

入っていればよい

5科平均が高いと

4科平均の範囲が引き上がる

各学校・４科の評定平均の幅

- 5科の評定平均が3.0の場合は

その学校の4教科の評定平均は

2.70～3.88

におさまっていればよい

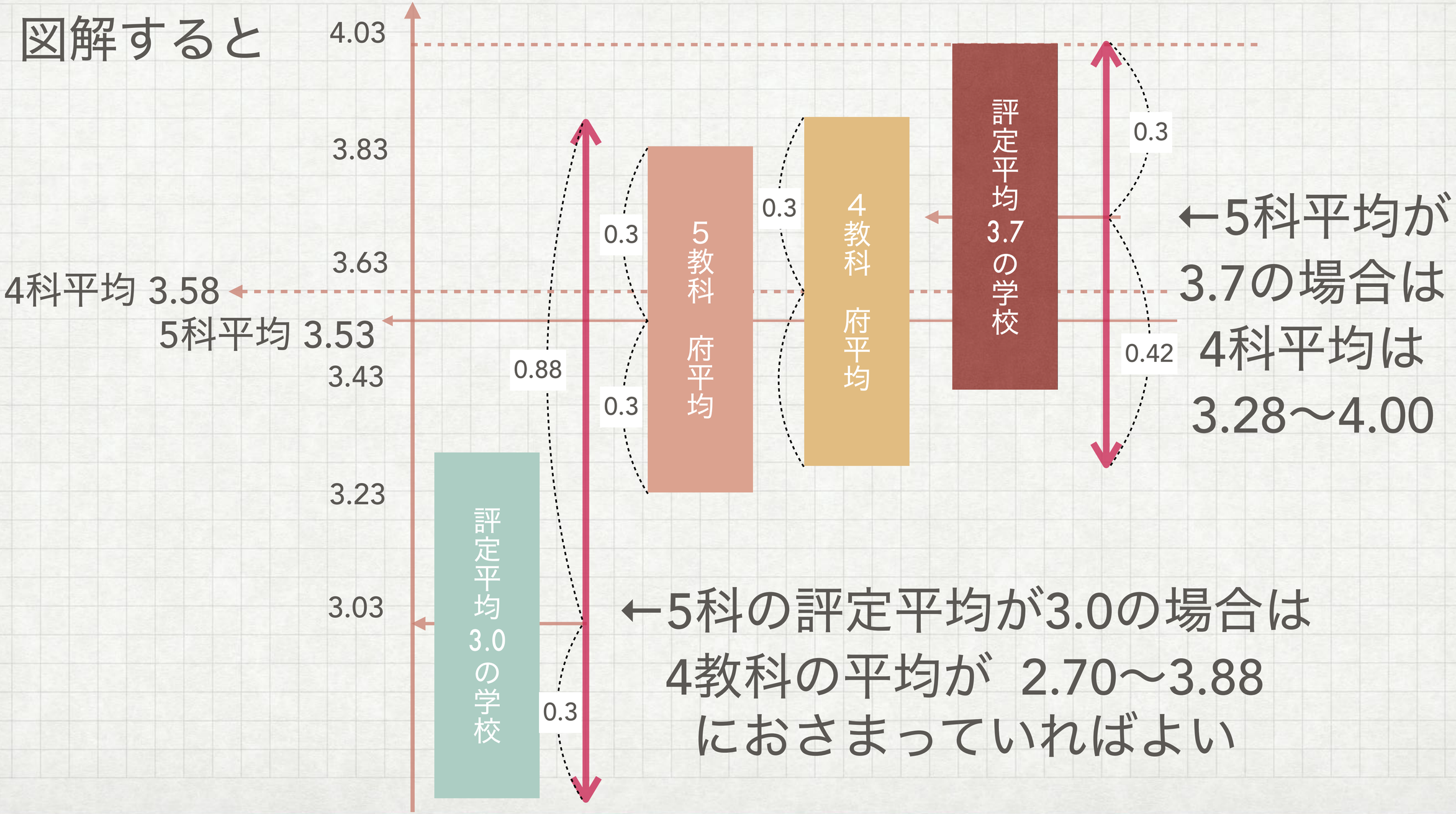
- 5科の評定平均が3.7の場合は

4科平均　3.28～4.00

4科 府平均＝3.58

範囲3.28～3.88

図解すると


4.03
3.83
3.63
4科平均 3.58
5科平均 3.53
3.43
3.23
3.03
評定平均3.0の学校
評定平均3.7の学校
5教科　府平均
4教科　府平均
0.88
0.3
0.3
0.3
0.3
0.3
0.42
←5科平均が3.7の場合は4科平均は3.28〜4.00
←5科の評定平均が3.0の場合は4教科の平均が 2.70〜3.88におさまっていればよい

実際の各評定の人数は

40%が評定5

	2019年	2020年
評定	人数	人数
5	16	19
4	28	28
3	39	38
2	14	13
1	3	2
合計	100	100
評定平均	3.4	3.49

2021年	低い	府平均	府平均	高い
評定	人数	5科	4科	人数
5	11	23	20	40
4	30	28	33	25
3	36	33	36	20
2	17	11	7	13
1	6	5	4	2
合計	100	100	100	100
評定平均	3.23	3.53	3.58	3.88

「内申点」(評定)の重みは…

- 中３の評定が1つ上がれば,　「内申点」＝＋6

  → 学力検査(入試)の 1〜2問正解にあたる

- 9教科各1つ上がれば,　「内申点」＝＋54

  → 一般入試・学力検査 1教科の60%

※一般選抜

学力検査：評定＝5：5の場合

学力検査＝450点　評定＝450点

５段階評定（９教科）はこうなる

１年＝２倍

２年＝２倍　合計450点

３年＝６倍

当日のテスト450点

総合計＝900点

評定	1	2	3	4	5
1年	18	36	54	72	90
2年	18	36	54	72	90
3年	54	108	162	216	270
合計	90	180	270	360	450

※９００点満点中　評定：学力検査の比率＝３：７～７：３

入試制度としてさらに機能しなくなる？

- 年々，府の評定平均は高くなっている
  →受験する高校の評定平均も上がる
  絶対評価を府平均の基準とする問題

- チャレンジテストの平均点によって，
各学校の評定平均の範囲が決まることで，
観点別評価と評定の関係がますます乖離する
可能性。

入試制度としてさらに機能しなくなる？

- 受験しない4科について，5科平均と分けたが，4科は 5科とあわせることで評定平均の範囲を定めたことで，評定平均の幅が広くなっている

進路